

2008年5月21日

各位

ダイセル化学工業株式会社

大竹工場における液晶表示向けフィルム用酢酸セルロース製造設備の竣工式実施の件

ダイセル化学工業株式会社（本社：大阪府大阪市、社長：小川 大介）は、本日、藤田広島県知事、入山大竹市長、古森富士フィルムホールディングス株式会社代表取締役社長をはじめとする関係者 180 名ご臨席のもと、当社大竹工場（広島県大竹市、工場長：島田 光治）における液晶表示向けフィルム用酢酸セルロース製造設備の竣工式を執り行いました。

液晶ディスプレイ市場の拡大に伴い、その材料である液晶表示向けフィルム用酢酸セルロースの需要も増大しており、将来的にも着実な需要の拡大が見込まれております。これに対応して、当社は、従来の製造能力では需要家の供給要請に十分応えることができないと判断し、2006年7月、広島県大竹市の当社大竹工場に隣接する工業用地約 10 万㎡の公募に応募、同8月に取得して、同地に液晶表示向けフィルム用酢酸セルロース製造設備を新設したものです。

本設備が稼動いたしますと、当社の三酢酸セルロース^{※1}（TAC）の製造能力は、現在の約 1.8 倍となります。

また、大竹工場の敷地面積は約 24 万㎡でしたが、2004年、2006年、2007年の3回にわたり、隣接する工業用地を広島県より購入して約 2 倍の約 47 万㎡といたしました。購入用地には、本設備の他、既に公表しておりますとおり、たばこフィルター用アセテート・トウ^{※2}製造設備および使用済みタイヤを熱資源として再利用する循環流動層ボイラーを設置し、両設備とも 2007 年中に稼動しております。

これら一連の設備投資により、大竹工場は、従来の有機合成事業部門の製品群に加え、セルロース事業部門の主要製品の製造も担当することとなり、姫路製造所網干工場と並んで当社のコア事業の成長を担う最重要拠点のひとつとなりました。

※1 三酢酸セルロース (TriAcetyl Cellulose)

酢酸セルロースのうち、主に液晶表示向けフィルムや写真フィルムの原料として使用されているものです。これに対し、主にたばこ用フィルターの原料となっているのが二酢酸セルロースです。

なお、アセテート繊維には、二酢酸セルロース、三酢酸セルロースともに使用されています。

※2 アセテート・トウ

主にたばこ用フィルターに使用される酢酸セルロース繊維の束です。世界のたばこの 95%以上がアセテート・トウのフィルターを使用しています。

以上

<別紙>

ダイセル化学工業株式会社の概要

設立： 1919年9月8日

代表者： 代表取締役社長 小川 大介

本店所在地：〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田3-4-5 毎日インテシオ

事業内容：

セルロース事業	酢酸セルロース、たばこフィルター用アセテート・トウ、CMC他
有機合成事業	酢酸および酢酸誘導体、カプロラクトン誘導体、 エポキシ化合物、半導体レジスト材料、光学異性体分離カラム他
合成樹脂事業	ポリアセタール樹脂、PBT樹脂、AS・ABS樹脂、 エンプラアロイ樹脂、各種合成樹脂成形加工品他
火工品事業	自動車エアバッグ用インフレーター、 航空機搭乗員緊急脱出装置、発射薬他
その他事業	水処理用分離膜モジュール、運輸倉庫業他

資本金： 362億7,544万89円

売上高： 4170億円（連結 2008年3月期）

（セグメント別内訳）

セルロース事業	725億円
有機合成事業	1,012億円
合成樹脂事業	1,713億円
火工品事業	654億円
その他事業	66億円

従業員数：7,685名（連結 2008年3月31日現在）

大竹工場の概要

工場長： 執行役員 島田 光治

所在地： 〒739-0695 広島県大竹市東栄2-1-4

敷地面積： 約47万㎡

主要事業： 有機合成事業（酢酸誘導体等の溶剤類、
カプロラクトン誘導体・エポキシ化合物等の機能性樹脂原料等）
セルロース事業（酢酸セルロース、たばこフィルター用アセテート・トウ）

あゆみ：

1961年1月	大日本化成株式会社として設立
1962年5月	操業開始（第1工場）
1965年12月	第2工場用地取得
1968年6月	親会社のダイセル株式会社（現 ダイセル化学工業株式会社）と合併
2004年3月	第3工場用地取得（1）
2006年8月	第3工場用地取得（2）
2007年6月	第3工場用地取得（3）
2007年7月	循環流動層ボイラー稼働
2007年10月	たばこフィルター用アセテート・トウ製造設備稼働

以上